

付録 2

【『世界』の韓国関連記事の目録（1972年1月号～1987年12月号）】

1972 年	2 月	「世界の潮」強硬路線に転じた朴政権
	3 月	「日本の潮」日米会談の影—揺れる日韓関係
	4 月	「座談会」国際政治の変動と朝鮮—南北朝鮮の現状をみて（江口浩・岡井輝英雄・三上瞻・宮田浩人）
		1970 年代の韓国学生運動（中川信夫）
		韓国学生の主張—「地下パンフレット」から
	9 月	朝鮮統一への確信と展望（金炳植）
		朝鮮統一問題の新展開—世界史の動向と日本外交（斉藤孝）
		統一—南北朝鮮の期待と混迷（野崎克二）
		統一朝鮮人像を求めて（宮田浩人）
		韓国スケッチの旅（緑川廣太郎）
	10 月	南北共同声明と日本（亀山旭）
	11 月	南北共同声明以降の韓国の論理（編集部）
		統制されない権力は悪である（金大中）
		「世界の潮」赤十字会談と国連朝鮮問題
	12 月	「世界の潮」韓国非常戒厳令と南北会談
	連載	日本はどうみられているか(2) 反発と依存—孤立感に悩む韓国の対日論調（編集部）
1973 年	1 月	憤りをもって韓国の現状を訴える（金大中）
		「世界の潮」ベトナム撤収と韓国経済
	2 月	朝鮮「皇民化」政策と宗教（中濃教篤）
	3 月	ベトナム戦争と韓国（金淳一）
		「世界の潮」南北朝鮮の対話と憲法改正
	4 月	日本株式会社と朴政権—「ポスト・ベトナム論」への教訓（中川信夫）
	5 月	「特集」韓国の現状を憂える：韓国の現状と日本の朝鮮政策（宇都宮徳馬）
		「特集」韓国の現状を憂える：アメリカの対韓政策と朴政権—上院外交委報告をみる（野崎克二）
		「特集」韓国の現状を憂える：「インタビュー」軍政からファシズムへ—朴政権十二年の軌跡を語る（金淳一）
		「特集」韓国の現状を憂える：日韓条約体制の再検討（野口雄一郎）
		「特集」韓国の現状を憂える：日韓「経済協力」の底にあるもの（大江志乃夫）
		古代史学と朝鮮（上田正昭）
		「グラビア」南ベトナムの韓国軍

7 月	「世界の潮」国連の朝鮮問題—WHO 以後
8 月	「日本の潮」新たな日韓癒着
9 月	「特集」韓国の現状と日本人の朝鮮観：韓国第 2 の解放と日本の民主化（鄭敬謨）
	「特集」韓国の現状と日本人の朝鮮観：韓国の民主化への道—朴政権の矛盾は拡大している（金大中、聞き手：安江良介）
	朝鮮の統一と日本外交の再出発—国連総会をまえにして（小幡操）
	「二つの朝鮮」政策と日本（中川信夫）
	支配秩序の動揺と「民衆の敵」（大江志乃夫）
10 月	「特集」金大中事件—何が問われているか：日韓関係における国家主権（石本泰雄）
	「特集」金大中事件—何が問われているか：韓国の現状と金大中の悲願（宇都宮徳馬）
	「特集」金大中事件—何が問われているか：日本が問われているもの—金大中氏事件を考える（鄭敬謨）
	最小限の感想（野中好夫）
	怒りを堂々と（中村哲）
	人道的立場で（猪俣浩三）
	キリスト者としての抗議（相川高秋）
	サンタ・バーバラ会議を（塩谷一夫）
	言論人にも責任が（青地晨・評論家）
	朴政権の日民主性（田英夫）
	日韓「経済協力」の現段階—金大中氏事件の底にあるもの（中川信夫）
	韓国の政治的自由と抑圧（藤島宇内）
	米国の『二つの顔』—金大中氏事件への対応を見る（菊地育三）
11 月	「声明」金大中氏事件に関して両国政府に要求する（各界 78 人）
	「投稿」怒りの底から—対韓政策の是正を（柳景子）
	「特集」朝鮮統一と日本の選択：日韓における真の連帯を—国民レベルの共通項を求めて（森恭三）
	「特集」キリスト者の自由と抵抗—韓国の現実は何を教えているか（飯坂良明）
	朝鮮統一の将来と国連（高野雄一）
	日本外交の体質と軌跡—金大中氏事件に見る（今津弘）
	朴政権を支える日本人たち—「韓国ロビー」の思想と行動（川崎達司）
12 月	「編集者への手紙」「私」から「われわれ」へ—金大中氏救出のために
	「論調紹介」韓国から見たサハリン問題
	「インタビュー」韓国の対日観を語る—金大中事件を通して（金淳一）
連載	真の解決と日本の責任—金大中事件の展開に思う（森恭三）
	掌で空を覆うことはやめよ—韓国国会での質問全文（鄭一亭）
連載	韓国からの通信(5, 7, 10, 11, 12)
連載	《ドキュメント》金大中氏拉致事件(10, 11, 12)

1974 年	1 月	金大中氏事件の法理論（田畑茂二郎）
		「対談」保守の構造とアジア外交（山本進、内田建三）
		恥ずかしい者同士の連帯（鄭敬謨）
		「声明」あるソウル大学生の手紙・声明文—我々はこのように立ち上がった
		「時局宣言」—韓国知識人の声明
		韓国の中の「日本株式会社」（中川信夫）
		「グラビア」自由を求めて
	2 月	「世界の潮」問い直される南北朝鮮の対話
	3 月	金大中・石油・アジア外交—危機の根源を見つめる（宇都宮徳馬）
		「グラビア」圧制と抵抗
	4 月	「投稿」金大中氏への手紙（高橋道晴）
		「日本の潮」日韓大陸棚協定—その矛盾と波紋
	5 月	「特集」韓国の現状と日本の民主主義 民主主義のための連帯 韓国民主運動のアピールにこたえて（倉塚平）
		「特集」韓国の現状と日本の民主主義 なぜ参加しなければならないか—韓国民主化の課題と展望（李大善）
		民族と文化—文化方向の到着（吉亥謨）
		韓国経済の現段階（中川信夫）
		ソウルで日韓関係を考える—金大中氏にあって（青地晨）
		妓生観光を告発する—その実態をみて（高橋喜久江）
		三通の手紙—祈りと闘争の中から（1. ソウルから、2. ニューヨークから、3. ボンから）
		信仰と自由 韓国の現状を見て（浅野順一）
		「世界の潮」混迷深まる南北朝鮮関係
	6 月	韓国の声—自由と自立を求めて
		「靖国」法案と朝鮮人戦犯（安宇植）
		「編集者への手紙」ひとつの市民運動
	7 月	独裁と主権と人権と—韓国の法秩序を考える（宮崎義一）
		韓国キリスト者の声—ある地下通信から
		「日本の潮」IPI 総会と「政治」の影
		「編集者への手紙」ひとつの提案
	8 月	「長編詩」民の叫び（金芝河）
		黙殺との戦い—被爆朝鮮人・孫振斗さんの訴え（平岡敬）
		「編集者への手紙」相模原から韓国へ
	9 月	「特集」金大中拉致一年の現実：この一年、そして明日（大江健三郎）
		二人の人間（小田実）
		韓国民衆の目指すもの（鄭敬謨）
		田中妄言を考える（李泳福）

		「手記」韓国労働運動の現状—ある地下闘争の報告
		「報告」軍事法廷での陳述(被告人家族からの報告)
		「あるうったえ」歴史の裁きを怖がれなくてもよいのでしょうか
		「訴え」金芝河らをたすける会
		「私の戦後史応募原稿」日本人とともに生きて
		「私の戦後史応募原稿」在日韓国人の「戦後」
		「編集者への手紙」朝鮮植民地支配と神社
	10 月	危機深まる韓国経済—高度成長の構造と矛盾 (隅谷三喜男)
		あえて罪を負う—法廷での二つの陳述 (伊漕善、朴炯圭)
		「長編詩」冀氏物語 (金芝河)
	11 月	韓国カトリック信徒の決議
		獄中からのメッセージ (池學淳)
		「世界の潮」動き出した国連朝鮮問題
		問われる米対韓政策—下院外交委公聴会の証言をめぐる (北畠霞)
		「日本の潮」知られざる軍事裁判
	12 月	「民青学連」事件—死刑囚家族の訴え
		「座談会」日韓癒着の構造—「奇妙な外交」を見直す (山本進、八代健朗、小林三良、鈴木良典)
	連載	韓国からの通信(1~12)
	連載	《ドキュメント》金大中氏拉致事件(2~12)
1975 年	1 月	原理としての人権—韓国民主化闘争に連帯するために (宮田光雄・東北大学教授・政治思想史)
		2 月 「世界の潮」転機を迎えた国連朝鮮討議
	3 月	反独裁民主社会建設宣言—新しい韓国を求めて (北米韓国人民民主社会建設協議会)
		白い広告は想う (森恭三)
		弟はとりかえず (早川公二)
	4 月	解放神学と韓国の基督教 (文東煥)
		「インタビュー」強権の下を韓国を語る「人民革命党事件を中心に」(G.オーグル)
		東亜日報が報ずる日本の支援運動 (東亜日報を支援する会)
		咸錫憲氏の訴え (咸錫憲)
		「編集者への手紙」民衆の声、民衆の低力
		「編集者への手紙」わが民族の自立のために
	5 月	「特別報告」馬山輸出自由地域の実態調査 (韓国正義と平和委員会・社会正義具現全国視察団)
		連帯を求める草の根の声—「東亜日報を支援する会」への手紙より (倉塚平)
		「人革党事件」被告の妻として—公開裁判を求める (安保馨)

	6 月	ベトナムの急変と朝鮮政策（宇都宮徳馬）
		東北アジアにおける日・韓・米―「インドシナ喪失」後の米戦略（北畠霞）
		全世界の友人たちに（咸錫憲）
		韓国カトリック正義具現全国視察団時局宣言
		アジアの人権とアムネスティ（荻田裕）
	7 月	奪われたものの詩（姜順姫）
		「ルポ」人革党「死刑とその後」（B.J. ウットワード）
		「世界の潮」「インドシナ後」の南北朝鮮
		「グラビア」「処刑の日」
	8 月	「編集者への手紙」「韓国自由言論実践白書」を巡って
		「編集者への手紙」人間としての願い
		「編集者への手紙」心の中の「朝鮮」
	9 月	追いつめられた韓国経済（隅谷三喜男）
		詩人金芝河の世界（鄭敬謨）
		良心宣言―獄中から（金芝河）
		「投稿」嵐の中の韓国人権運動「韓国からの通信」の記事に関連して（川久保公夫）
	10 月	「編集者への手紙」私と韓国
	11 月	南北朝鮮と日本外交（武者小路公秀）
		ニセの言葉を拒否する（大江健三郎）
		韓国の現状に代わるもの（R.A.フォーク）
		なぜ韓国教会は戦っているのか―韓国の民主化とキリスト教（金在俊）
		日韓連帯の思想と展望（和田春樹）
		朝鮮半島の緊張の構造―軍事的視点から（阪中友久）
		米国の対韓政策と国連（北畠霞）
		「解説・年表」日韓条約体制十年（中川信夫）
		地底からの告発―被爆朝鮮人が提起するもの（平岡敬）
		国内にみる朝鮮政策の歪み―在日韓国・朝鮮人処遇問題（宮田浩人）
	12 月	日韓経済関係―転換の方向（隅谷三喜男）
		ある民族主義者の生涯（鄭敬謨）
	連載	「日本の潮」自衛隊認知への傾斜
		韓国からの通信（1～12）
	連載	《ドキュメント》金大中氏拉致事件（1～7、9～12）
1976 年	1 月	（創刊三十年記念）東アジアにおける冷戦の終結―朝鮮半島をめぐるパニックに抗して（福田歓一・東京大学教授・政治思想史）
		「世界の潮」国連決議以降の朝鮮問題
	2 月	韓米関係の神話と現実（林昌栄）
		「共同取材」韓国言論に関する報告（金一善、他）

		「報告」緊急措置 9 号に対するソウル大学生の戦い
		裁判の公正を求める一大法院庁への公開状（金大中）
	3 月	新しい試練の中で（東亜自由言論守護闘争委員会）
	4 月	「宣言」日本民衆への提案—1975 年 3 月 1 日（金芝河）
		剥き出しの権力に抗する（J.P. シノット）
		韓国キリスト者のうったえ
		「編集者への手紙」陳斗鉉さんの再審実現へ支援を
		「編集者への手紙」重たいもの
	5 月	「共同取材」韓国学生の抵抗運動に関する報告（趙善男、他）
		自由言論の戦いはやぶれたか—『東亜日報』記者の闘争報告（洪哲熙）
		「資料」民衆救国宣言（全文）
		日韓「絹」戦争の行方（小牧輝夫）
	6 月	—自民党議員の憂い—ロッキード事件と日韓関係（塩谷一夫）
		「朝鮮日報」の記者の戦い—言論自由の戦いを振り返る（林京樺）
		「共同取材」韓国労働運動に関する報告（李永吉、他）
	7 月	「インタビュー」朝鮮の非核地帯化と日韓関係（梁一東）
		韓国大学教授追放に関する報告（洪英煥）
	8 月	「編集者への手紙」さげび続けたい
	9 月	朝鮮問題における発想の転換（金淳一）
		韓国学生はなぜ沈黙をつづけるか（趙善男）
		「未発表詩十編」忘れるな（金芝河）
	10 月	朝鮮問題へのアメリカの選択（R.A.フォーク）
		アメリカの韓国ロビ（F.ボールドウィン）
		「長編詩」十章の歴史研究（金明植）
	11 月	この虚偽をいつまで固持するか—金大中拉致事件について政府・自民党の諸氏に問う（伊藤成彦）
		韓国セマウル運動の報告（金英姫）
		「日本の潮」三八度線と基地沖縄
		韓国は時限爆弾である—われわれの要請
		「編集者への手紙」金淳一氏の論文を読んで
	12 月	日韓関係の不正・腐敗1 伏魔殿としての商業借款（中川信夫）
		日韓関係の不正・腐敗2 危険負担は誰がしているか（岩佐讓）
	連載	韓国からの通信（1～12）
	連載	《ドキュメント》金大中拉致事件（1～12）
1977 年	1 月	「日本の潮」在韓米軍撤退と防衛庁
		「報告」日韓関係の不正・腐敗 日本における朴政権の友人たち（野村圭一郎）
	2 月	独裁を弾劾する—法廷陳述（金大中）

	韓国の民主化と統一戦線—発想の転換を求めて（申英均）
3 月	金芝河の統一思想—法廷陳述から（日本カトリック正義と平和協議会）
	李富栄記者への手紙（金鐘徹）
	「編集者への手紙」金大中氏の陳述に思う
4 月	韓国経済の危険な選択（隅谷三喜男）
	「共同研究」日韓癒着の構造 1. 経済界にみる朴政権の友人たち（野村圭一郎）
	「共同研究」日韓癒着の構造 2. 疑惑の中の対韓農業援助（青木浩司）
	「共同研究」日韓癒着の構造 3. 誰のための共同開発か—疑惑の日韓大陸棚協定（加賀奏之）
	「共同研究」日韓癒着の構造 4. 朴政権下における体制的腐敗（中川信夫）
	一本の竿を立てよう—「北」と「南」と「われわれ」（小田実）
	「資料」韓国民主化連合運動の報告書
5 月	「3・1」法廷の語録—被告最終陳述（編集部）
	韓国労働運動の今日—教会からの視覚（池学淳）
6 月	反権力的良心の自由のために—韓国・良心犯とその家族の訴え（編集部）
	「長編詩」奴隷手帳（梁性佑）
8 月	韓米関係の転換を求める—カーター米大統領への書簡（尹潽善）
	「韓国からの通信」を演出して（米倉齊加年）
	「編集者への手紙」「韓国からの通信」を読み続けて
	「グラビア」韓国の仮面
9 月	韓国政治の課題—上告理由補充書全文（金大中）
	「討論」朝鮮政策転換の方向（岩井章・元総評事務局長、木村俊夫・衆議院議員・自民党、隅谷三喜男・信州大学教授、関寛治・東京大学教授、司会：安江良介）
	米国の朝鮮認識と朝鮮政策—朴政権への姿勢をめぐって（石川昌）
	南北朝鮮の軍事対立（村瀬峻一）
	岐路に立つ韓国民主化運動—「朴政権後のために」（李大善）
	「報告」金大中氏事件の構図と事実（山川暁夫、森詠）
	「グラビア」金大中氏拉致事件四年
10 月	復権への連帯—韓国の被爆者調査をめぐって（平岡敬）
	息子たちがやってきた（小田実）
11 月	「編集者への手紙」朝鮮語を学ぶ中で
	「グラビア」部落と朝鮮
12 月	我々の道—独裁に代わるために（尹潽善）
	緊張の緩和と朝鮮の統一問題—南北相互軍縮は緊要（宇都宮徳馬）
	朝鮮における恒久的平和—米政策への挑戦（G.マクガバン）
	「編集者への手紙」何か、したい—対韓政策をたやすために
連載	韓国からの通信（1～12）

	連載	ドキュメント 金大中拉致事件(2～12)
1978 年	1 月	「論壇」再生の多義性 (大江健三郎)
		解放路線か近代化路線か (鄭敬謨)
	2 月	「政治決着」の虚構 (中川信夫)
		私の労働運動はこうして始まった (李小仙)
	3 月	「論壇」名もなき「女たち」(新井献)
		「日韓繊維戦争」の実態をみる (中川信夫)
		「声明」民主国民に告げる (尹潜善氏ら7氏)
		「編集者への手紙」鄭敬鄭敬謨氏の歪曲
	4 月	「米国における KCIA の戦略」(李在鉉)
		米国国務省報告書への反論—3.1 民衆救国宣言事件被告一同
	5 月	徐兄弟—獄中からの手紙 (徐勝、徐俊植、東海林勤、徐京植)
		民衆の声に耳を傾けよ (張琪杓)
		「日本の潮」米韓合同演習の標的
	6 月	「日本の潮」国家と被爆者孫振斗氏の勝訴
		「日本の潮」売春観光の経済と心理
	7 月	詩人における 4・19 革命 (高銀)
	8 月	「座談会」朝鮮問題と日本の新聞論調—その後退を衝く (和田春樹、新聞記者 A,B、司会 安江良介)
		火種になるもの (富山妙子)
		「編集者への手紙」韓国人政治犯と7・4共同声明
	9 月	李泳福教授の受難 (菊池昌典)
	11 月	「共同報告」日本の対朝鮮政策の転換を (青地晨、飯沼二郎、市川房枝、伊藤成彦、大江健三郎、大塩清之助、小田実、川田侃、倉塚平、清水知久、東海林勤、隅谷三喜男、関寛治、高野雄一、鶴見俊輔、中野好夫、日高六郎、宮崎繁樹、森恭三、森田宗一)
		これでも教師なのか—韓国の一つの現実 (宋基淑)
		「海外談話室」南溟の 8.15
	12 月	民主回復と民族統一 (文益煥)
1979 年	連載	韓国からの通信(1～12)
	連載	《ドキュメント》金大中拉致事件(1～12)
	2 月	「維新」近代化と韓国ナショナリズムの相剋 (鄭敬謨)
	3 月	「ルポ」韓国への旅 (石井清司)
		韓国文学と第 3 世界文学の使命 (白楽晴)
		「編集者への手紙」民主主義の再考を—金大中氏の仮釈放に思う
	4 月	六十年が経った—「朝鮮」、「ベトナム」、そして「日本」(小田実)
		「南北対話」再開への注視と警戒 (李大善)
		南北対話再開にさいして (関寛治)

	5 月	ソウル特派員の三年①（前田康博）
	7 月	隣国を知るということ②（前田康博）
	8 月	徐俊植君への手紙（西村関一）
		「アピール」徐俊植氏への「保安監護処分」一周年を迎えて
		連続シンポジウム・金芝河（小中陽太郎）
		著者のもとのかたち—金芝河の戦い方（鶴見俊輔）
		「魂」を生きる思想—金芝河の詩精神（金時鐘）
		「インタビュー」カーター訪韓と韓国の民主主義（金大中／聞き手：J.ステンツエル）
	10 月	「投稿」故西村関一先生への手紙（徐京植）
		「日本の潮」日韓軍事時代のスタート
	11 月	朝鮮人・韓国人被爆者の核意識（小寺初世子）
	12 月	光州抗日学生運動五十周年—若き民族精神の源流（姜在彦）
		「人革党」家族の訴え（秋菊香、他）
	連載	韓国からの通信(1～12)
	連載	ドキュメント・金大中拉致事件(1、3、4、6～8、10～12)
1980 年	1 月	「共同報告」いまこそ対韓政策に転換を—韓国の新事態に際して（青地晨ほか 29 名）
		「インタビュー」韓国の新事態と日本の朝鮮政策（木村俊夫、聞き手：安江良介）
		動揺する東南アジア—朴暗殺の波紋（福島光丘）
		もう一つの日商岩井事件—新韓碍子の受難（大木圭之介）
		韓国の軍部（前田康博）
		「日本の潮」「朴暗殺」と日本の新聞報道
	2 月	開発独裁と政治体系危機—スペイン、イラク、韓国の場合（高橋進）
		「グラビア」激動の韓国 79 年
	4 月	病床から祖国を思う—徐兄弟の母、9 年の歩み（呉己順、聞き手：栗本敬三、宮田浩人）
	5 月	韓国の民主化と南北の対話（金淳一）
		「編集者への手紙」呉己順さんの記事を読んで
	6 月	三・一運動 61 周年記念国民連合宣言
	7 月	自由光州の制圧に想う（和田春樹）
		全斗煥の光州殺戮作戦（朝鮮大学民主闘争委員会）
		徐兄弟の母・呉己順さん逝く（宮田浩人）
	8 月	「特集」光州の真実：1980 年代の座標—自由、正義、統一の具現のために（金大中）
		金大中氏抹殺の陰謀と加担者たち（和田春樹）
		光りよ、蘇れ（岡部伊都子）
		光州自体—二つの日誌（編集部）
		光州自体の真相（カトリック光州大教区司祭団）
		全斗煥体制と国際論調—外報部のデスクから（猪狩章）
		「グラビア」流血の光州—80 年 5 月韓国

9 月	「特集」金大中氏の現状—われわれは黙過できない: 反論理の水先案内人—光州と被爆者援護法 (大江源建三郎)
	「意見」金大中氏の現状について—どう見るか、何をすべきか: わが国の原則は何か (河野健二)
	暗黙政治に加担するな (澤地久枝)
	金大中君救援を急げ (田中伊三次)
	日本政府の責任 (加藤周一)
	虚無感こそ最大の敵 (寿岳章子)
	普遍的な原理に関わる (江沢洋)
	人間に希望をもつために (中野孝次)
	日本政府の義務 (田畑茂二郎)
	ひとりごと (むのたけじ)
	日本の民主主義の運命 (横路孝弘)
	外国市民とも連携して (松本清張)
	人権尊重こそ安全保障の原点 (森恭三)
	「賢人会議」で勧告しよう (サトウ・サンペイ)
	金大中氏事件を見直せ (河野洋平)
	ファッショ政権への支持をやめよ (立木洋)
	金大中氏について (高橋健二)
	国際的な課題 (塩谷一夫)
	苦渋に満ちて (灰谷健次郎)
	過去の誤りをくり返すな (田英夫)
	歴史学を専攻する一市民として (鹿野政直)
	不可解な光州の軍事制圧 (中野好夫)
	連帯して金大中を救おう (郷静子)
	金大中氏救援—日本に重責 (吉田ルイ子)
	全斗煥氏の冒険と日本外交 (山本剛士)
	全斗煥体制の対日報道統制—日本はどう対応するのか (衣笠新作)
	光州の真実—海外の友人に伝える
	「声明」光州人権調査団の派遣にさいして
	「ルポ」祖国光州の死者の霊前に—東京で光州犠牲者追悼集会から (宮田浩人)
	道義政治の具現 (金大中)
	「編集者への手紙」軍政への怒り
	「編集者への手紙」強権と民衆
10 月	全斗煥体制と金大中氏の裁判—問われている日本の今日と明日 (和田春樹)
	「現地報告」光州惨劇の真相はこうであった
11 月	「共同報告」金大中氏裁判と日本—三たび対韓政策の転換を求める (青地晨ら 20 人)

	12 月	「論壇」朝鮮民衆の 1930 年代（梶村秀樹）
		「特集」金大中氏の生死：燃え尽きるまで祈るであろう—最終陳述 1980 年 9 月 12 日金曜日
		金大中氏への追及—第 1 審検事訊問から
		「政治家・金大中」と私（河野洋平）
		国際常識との大きな落差—外から見た金大中「裁判」と日本（伊藤成彦）
		法的な疑義がある—金大中裁判について（小田中聡樹）
		日韓軍事提携の現状（前田康博）
		韓国学生の声 — 三つの宣言
		陸軍本部戒厳普通軍法会議を終えて
		いわゆる「金大中等内乱陰謀事件」関係者家族一同
		獄中 10 年—徐兄弟獄中からの手紙 再び兄たちの手紙を公表するにあたって（徐京植）
		獄中から1（徐勝）
		獄中から2（徐俊植）
		「編集者への手紙」在日韓国人政治犯への関心を
		韓国の魂の冬（牧野寛）
		「グラビア」黙視することはできない
	連載	韓国からの通信（1～12）
	連載	《ドキュメント》金大中拉致事件（1, 2）
1981 年	1 月	韓国軍事法廷第二審記録
		「論壇」金大中さんを殺すな（青地晨）
		「日本の潮」禁じられた「光州」のうた
		「編集者への手紙」「金大中氏の生死」を読んで
	2 月	金大中氏の生命を憂慮する緊急国際会議（和田春樹）
		「世界の潮」マイナス成長下の韓国経済（山本剛士）
		「編集者への手紙」「金大中氏を殺すな！緊急集会」に参加して
		「グラビア」金大中さんを殺すな
	3 月	「法廷記録」光州事態の真実—被告最終陳述から走り出した産官軍複合体—八一年度防衛
		予算三つの問題点（高岡雄）
		「日本の潮」対韓武器輸出の裏側（山本剛士）
	4 月	日韓関係の位相—何ものも変わってはいない（山本剛士）
	5 月	「特集」新日韓条約体制「シンポジウム」新日韓条約体制を検討する（大内穂ほか）
		金大中氏減刑以後の状況—「日韓修復」論を考える（伊藤成彦）
		「日記」怒りより悲しみが...（フランシスコ金成鏞神父）
		「検証」「光州事態」とは何だったのか（宮田浩人）
		今日の光州—投獄者家族の訴え
		「ルポルタージュ」一年後の光州を訪ねて（金子修）
	6 月	韓国人権白書—アムネスティ・インターナショナル

	7 月	「日本の潮」日韓を結ぶ「原子力」
	9 月	五・一八光州事態(市民蜂起)白書
		「論壇」八年目の金大中氏と私たち (和田春樹)
	11 月	「特集」日韓軍事体制を憂える: 鈴木首相への要請 極東における平和の危機と日本の選択について
		極東情勢と日本の選択—報告「シンポジウム・平和の危機について」(和田春樹)
		「六〇億ドル援助」の政治構造 (山本剛士)
		日韓軍事体制の実像 (藤井治夫)
		政界—ソウルへの奔流 (大月信次)
		米日韓安保の中の財界—防衛強化と太平洋経済共同体構想と (高岡雄)
		日米韓軍事体制の展開 (関寛治)
		全斗煥政権の人脈 (前田康博)
		「日本の潮」竹入訪韓と公明党の選択
	12 月	何が朝鮮情勢を緊張させているか (宇都宮徳馬)
	連載	韓国からの通信(1~12)
	1 月	「報告」良心犯とその家族の近況
	2 月	「訴え」崔哲教・姜宇奎氏の病氣治療を
		「世界の潮」景気か物価か—韓国経済のジレンマ
	4 月	「日韓新時代」と自民党—「六十億ドル援助」をめぐる (山本剛士)
		対韓認識にみる現実追随主義 (和田春樹)
	5 月	「報告」韓国第五共和制の実態
		ソウルからの地下報告
1982 年	6 月	「声明」除勝・除俊植兄弟の釈放を求める
		「創作」[詩]光州詩片 (金時鐘)
	7 月	「編集者への手紙」在米韓国人の憂い
		「編集者への手紙」韓国のファシズムは対岸の火事ではない
		「グラビア」米韓軍事合同演習
	9 月	ソウル地下報告—手形詐欺事件と乱脈人事
		私はなぜ放火したのか—金枢機卿様への手紙 (文富軾)
	10 月	「特集」歴史の問い—8・15 と教科書: 教科書検閲の病理 (加藤周一)
		怨は怨によっては息まず—教科書問題、三つの要点 (岡崎嘉平太)
		「反省」とはなにか—アジアのなかの教科書問題 (日高六郎)
		政治転換期における歴史意識—臨調答申と教科書問題 (山口定)
		教科書問題と「友好」の虚像 (金学鉉)
		「声明」いまこそ朝鮮植民地支配の清算を
		「対談」救国と和解を求めて—韓国の現状と日韓関係 (金淳一、聞き手: 安江良介)
		ソウルからの地下報告

	11 月	ソウルからの地下通信
		「編集者への手紙」植民地支配観と教科書
	12 月	「日本の潮」対韓援助問題の行方
	連載	韓国からの通信(1～12)
1983 年	1 月	ソウルからの地下報告
		「編集者への手紙」危機に瀕する韓国獄中の生命
		「編集者への手紙」韓国労働者を支援する一連動
	3 月	金大中氏の出国と日韓米三国同盟 (和田春樹)
		「編集者への手紙」対「韓」援助を考える
	4 月	「対談」韓国経済と日韓米同盟 (隅谷三喜男、猪狩章)
		ソウル地下報告
	5 月	「共同報告」反米傾向を強める韓国の現状—この一年を省みて(上)
	6 月	「共同報告」反米傾向を強める韓国の現状—この一年を省みて(下)
		ソウル地下報告
	7 月	韓国において民主主義の希望はあるか (金大中)
	9 月	「インタビュー」韓国現代史の問うもの—われわれはいかに生きべきか (金大中、聞き手・安江良介)
	10 月	岐路に立つ韓国経済—成長の虚像と実像 (隅谷三喜男)
		「編集者への手紙」金大中氏と我々の反省
	11 月	KAL 事件に読む国際政治 (浅井信雄)
		いまやミサイルは装着されている—KAL 事件とわが国の対応 (前田寿夫)
		極東の緊張と電子情報戦 (高榎堯)
		「国防至上主義」の呪縛—KAL 機撃墜とクレムリンの論理 (佐野真)
		分断民族をめぐる軍事的危機—韓半島周辺情勢の質的变化を考える (李泳禧)
		「編集者への手紙」韓国民主主義よ、蘇れ
	12 月	レーガン大統領への提言—大統領の訪韓に際して (B・カミングス)
		朝鮮半島の緊張を憂う—日本外交は何をなすべきか (武者小路公秀)
		アジアの安定は終わったのか—アキノ氏暗殺、KAL 撃墜、そしてラングーン事件 (今川瑛一)
		「編集者への手紙」KAL 事件の残したもの
	連載	韓国からの通信(1～12)
1984 年	1 月	レーガン訪韓はどう評価されたか—米国の論調を中心に (前田康博)
	2 月	「シンポジウム」アジアの人権と平和—韓国・フィリピンをめぐって (E.ガルシアほか)
		韓国民の苦難と希望 (李文永)
	3 月	南北対話の緊急性と日本—朝鮮情勢が問うもの (今津弘)
		「資料」朝鮮問題三者会談をめぐって
		アメリカにおける金大中—緊張と期待の中で (ファリス・ハーヴィー)

	ソウルから編集部の方へ—二つの事件をめぐって（韓国・一青年）
	大韓航空機撃墜事件の虚実—取材・報道の内側から（片山正彦）
4月	民主化運動と民族統一の思想—韓国知識人の新しい動向（李大善）
	われわれが彼らを殺した（咸世雄）
	変わっていないこと（金石範）
	「論壇」—一九二〇年代の日本人と朝鮮人—金子文子について（山田昭次）
5月	韓国学生による二つの報告書—兵營化した韓国の大学
6月	「論壇」日本社会党の朝鮮政策—期待と注視（和田春樹）
	「連載」名探偵ただいま逃亡中」中 6月号 済州島エレジィ
7月	胎動する朝鮮情勢と中国外交—現実主義がいこうからの提言（宇野重昭）
	「日本の潮」日韓二〇年の計画と計算
8月	「特集」日本にとって朝鮮問題とは何かⅠ日本は何をしてきたか：日韓条約体制（齊藤孝）
	植民地支配（山田昭次）
	七〇年代（清水知久）
	日韓米新時代（前田康博）
	在日韓国・朝鮮人（田中宏）
	「特集」日本にとって朝鮮問題とは何かⅡ朝鮮問題と大国：分断の責任（関寛治）
	「三者会談」（今津弘）
	朝鮮半島をめぐる軍事情勢—不安的な休戦状態（藤井治夫）
	在韓米軍—韓国の戦闘司令部（藤井治夫）
	「特集」日本にとって朝鮮問題とは何かⅢ「シンポジウム」いま何をなすべきか（五十嵐武士、石川昌、鴨武彦、河合秀和、清水知久、隅谷三喜男、司会・和田春樹）
	国民国家への道—南北朝鮮統一と北のイニシアティブ（金淳一）
	米国における金大中氏と米韓関係（蔵田雅彦）
	84年ソウルの春—グラビアに寄せて（北川素子）
	「グラビア」全斗煥政権下の学生たち—1984年春
9月	ソウルのR兄に送る手紙—全斗煥訪日を前にして（鄭敬謨）
	長くきびしい道のり—徐兄弟消息（徐京植、徐勝、徐俊植）
	「論壇」「朝鮮」と教科書検証の観点（金石範）
	「編集者への手紙」社会科授業の中の韓国・朝鮮
10月	絶望と「南朝鮮」思想（金学鉉）
	韓国の運命と日韓関係—全斗煥氏訪日を機に、編集部の質問に答える（金大中）
11月	「日韓新時代」と新聞報道—ひとつのケース・スタディとして（石川昌）
	「全大統領訪日」とは何だったのか—「お言葉」と「答辞」を検討する（和田春樹）
	七十五年の空白—「韓日新時代」に思う（金学鉉）
	「ネーション誌特約」大韓機撃墜事件—米国はすべてを知っていた（デービット・ピアソン）

	連載	'84・中国、朝鮮、日本(第一回)(12)
	連載	韓国からの通信(1~12)
1985 年	1 月	「座談会」「伽倻子のために」と日本人 (飯沼二郎、大沢信一郎、小栗康平、金正郁、塩田庄兵衛、李恢成、金時鐘)
	2 月	改めて日本を視る (金芝河)
	4 月	「ドキュメント」ワシントン—成田—金浦—金大中氏の帰国をめぐって (和田春樹)
	5 月	大韓航空機事件と自衛隊 (増尾由太郎)
		金大中氏の帰国と米韓関係の行方 (柳鐘根)
	6 月	「指紋裁判」—金さんの陳述 (上島聖好)
	7 月	「対談」日韓の緊張はなぜ解けないか (澤正彦、滝沢秀樹)
	10 月	「韓国学生は主張する」時代が私を「闘士」にした (柳時敏)
		「編集者への手紙」朝鮮解放四十年にあたって
		「グラビア」「両国氷好」の道—朝鮮通信使の群像
	連載	八四年・中国、朝鮮、日本 (1~4)
	連載	韓国からの通信(1~12)
1986 年	1 月	全斗煥体制に何が起きているのか—南北首脳会談への底流 (五島隆夫)
	2 月	「対話」＜帝国＞日本への問い—歴史の前で (金明植、藤本治)
		「在日」における民族と国家—若い世代の生き方を中心に (尹健次)
		「指紋押捺拒否」で見えてきたもの (宮田浩人)
	4 月	「共同報告」誰が、どのように決めるのか(第一回)
	5 月	「共同報告」援助を見直す(第二回) 霜を履んで堅氷至る—韓国 (山本剛士)
		「民族的アイデンティティ」と指紋問題—外国人登録法の改正を求めるアピールに寄せて (百瀬宏・)
		「資料」外国人登録法の改正を求めるアピール
	6 月	「在日韓国人政治犯の十五年」架け橋としての在日韓国政治犯 (金泰明)
		「在日韓国人政治犯の十五年」十五年間から見えてきたもの (吉松繁)
		「声明」今日のフィリピン・韓国情勢とわれわれの立場
	8 月	「論壇」韓国改憲運動の真価 (仁科健一)
		人間であることの戦い—われわれの「戦後」と獄中十五年の徐兄弟 (日高六郎)
	9 月	なぜ見棄てるのか—在韓被爆者、いのちの問い (鎌田定夫)
		「グラビア」見棄てられた民—在韓被爆者の証言
	10 月	KAL はそのようには飛ばなかった—柳田邦男『ブラック・ボックス』の批判的検討 (杉本茂樹)
	11 月	韓国大学人の「時局宣言」に応える (清水友久)
		朝鮮半島緊張緩和への模索 (ヤン・C・キム)
		「グラビア」夢幻劇場—韓国・サーカスの時間 (本橋成一)

	12 月	鮮于(ソヌヒ)さんのこと (司馬遼太郎)
		教育の危機と「単一民族国家観」―「在日」の視座から (尹健次)
	連載	韓国からの通信(1～12)
	連載	韓国現代史と文学(4～6)
	連載	レンズ・オン・ザ・ワールド 「韓国」(8)
1987 年	3 月	「特集」韓国・フィリピンを注視する:韓国情勢と私たち―なぜ注視しなければならないか (和田春樹)
		「特集」韓国・フィリピンを注視する:米国は韓国の危機にどう対処するか (B・カミングス)
		「資料」韓国民主化に関わる三つの決議・宣言
		「特集」韓国・フィリピンを注視する:韓国軍内部で何かが動いている (五島隆夫)
	7 月	「グラビア」マラソンランナー、金哲彦(キムチョロン)のスタート
	8 月	「インタビュー」歴史は新しい章に入った (金大中、聞き手:東海林勤)
	9 月	「ドキュメント」韓国軍政を揺がした二〇日間 (仲原兼人)
		「座談会」「共生」の原理のために―指紋拒否から見えてきたもの (陳伊佐、鄭宏溶、金康治、康勝好、司会:百瀬宏)
	10 月	「特集」韓国民衆革命―現状と将来:「韓国民主化の声―どう闘ったか、何を実現するか」(高崎宗司)
		「座談会」日本人はどう応えるのか―韓国民衆革命と日本の朝鮮観 (隅谷三喜男、坂本義和、司会:和田春樹)
		「対談」六月民衆革命の軌跡と展望 (金淳一、安江良介)
		「声明」張義均氏不当拘束・不法捜査事件に抗議する声明
		「対談」韓国民主化と米国の朝鮮政策―六月革命後を語り合う (B・カミングス、D・サタホワイト)
		日韓ルート―その変遷 (前田康博)
	12 月	「対談」韓国民主かと日韓関係 (金大中、徐龍達)
		金大中氏拉致事件と李厚洛氏発言 (伊藤成彦)
	連載	韓国からの通信(1～12)
	連載	レンズ・オン・ザ・ワールド 「韓国」(1、3、8)
	連載	アムネスティ通信 金文洙(大韓民国)(6)